「今後の認知症施策の在り方等について」（意見）

～認知症の方ができる限り住み慣れた地域で暮らし続けていける共生社会の実現を目指して～

民間介護事業推進委員会

代表委員 二神 雅一

【意見Ⅰ】

認知症の方を地域で支える「地域力」「受容力」を高める

1. 学校教育現場における、教員・小中高生への啓発活動

○課外学習 職場体験学習などを利用する

○学校教育の中から地域で認知症の方を支える風土の醸成を図る

2. 地域の担い手の養成と活動の推進

○地域住民への理解を促進し、ボランティア・認知症サポーター等の担い手の養成を図る

・認知症及び認知症基本法の基本理念等に関する学びの場を増やす

・地域や福祉施設でのボランティア・認知症サポーター等の受け入れを促進する

○公共機関・生活関連施設等における認知症の方へのサポート体制を強化する

○「認知症バリアフリー宣言」に関して企業等への啓発普及と取組み支援を進める

○地域における相談・情報提供の窓口を増やし、支援や情報を得やすくする

3. 地域コミュニティの積極的活動

- 医療・介護施設と地域住民の垣根を無くし、顔の見える関係を構築する
 - ・地域と一体となって支えていくという意思に基づき施設側が活動していく（医療/福祉の施設だけで支えるという概念を捨てる）
 - ・住民主体の支えあい活動に対して医療・福祉機関から支援を行う

- 身近な地域の「通いの場」を充実させる
 - ・地域サロン、ボランティア組織との連携を図る、認知症カフェの設置を推進する（こうした活動への「場の提供」が重要となる）
 - ・地域コミュニティにおける認知症の方の居場所づくり、役割づくりを進める（「場」ができれば認知症の方の居場所と役割ができる）

- ボランティアなどとのマッチング事業を推進する

- 地元企業・地場産業とのコラボレーション/公益活動を推進する

4. 防犯・防災意識の醸成

- 防犯・防災に務めるとともに、災害時における認知症の方への支援体制を強化する

【意見Ⅱ】

認知症ケアの充実～在宅限界値を高める

1. 介護施設等で提供されるサービスメニューの充実

○早期のリハビリテーション／機能訓練を実施する

(五感刺激による認知機能の向上メニューの提供／聴覚機能低下によるコミュニケーション障害の防止)

○運動・栄養（水分）面へのマネジメント的アプローチを行う

○活動・参加の実行状況を高めるためのサービスメニューの開発を促進する

○農業・園芸などを積極的に活用する

○ピアグループ／ピアサポートを積極的に活用する

2. 介護が必要となった場合の支援体制の整備

○地域に開かれた訪問・通い・泊りのワンストップ型の事業所を充実させる

○緊急時にも対応できる支援体制を整備する

○介護者同士の交流/相談が図れる場を整備する

3. 防犯・防災への対応力の向上

○地域住民との顔の見える関係や、協働できる関係を構築する

○発生時の体制や対処法等について日常的に確認するとともに、定期的に訓練を行うなど、意識の醸成を図りながら実効性を高める